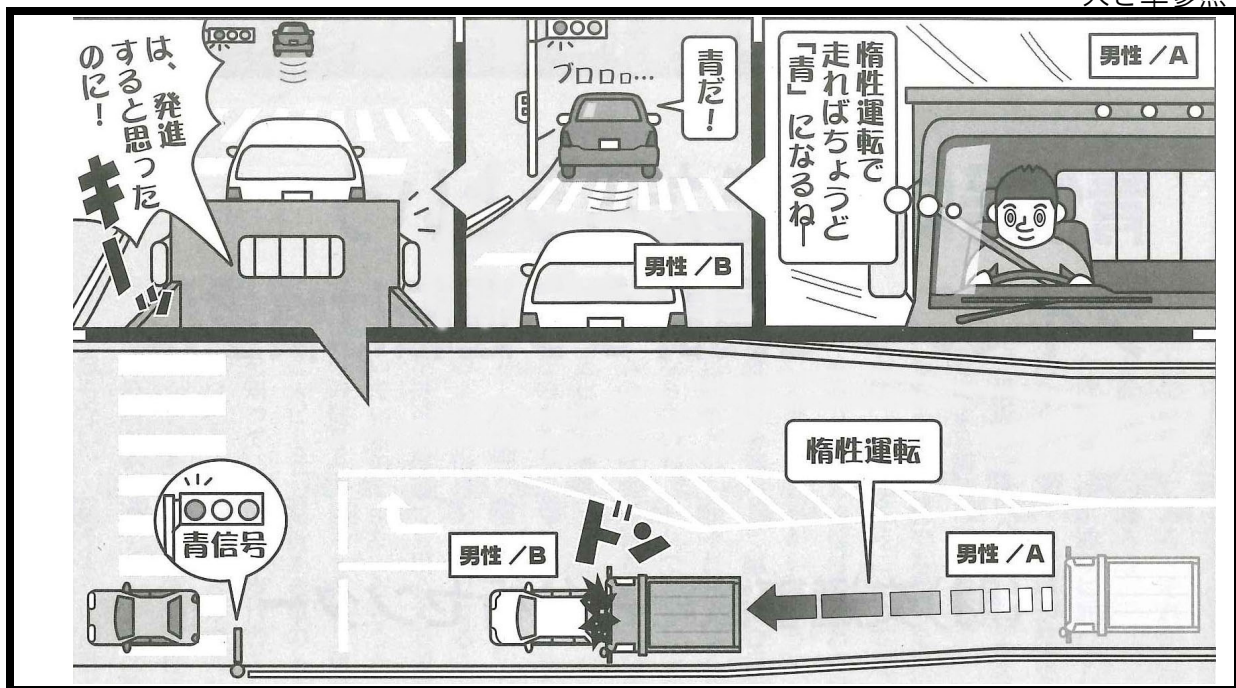


■事故の概況

人と車参照



事故類型：追突

発生日時：平日 午前中

当事者A：大型貨物車 20歳代 男性

■ 事故の概要

主要地方道の片側1車線道路で、前方の見通しが良く、右折レーンがある下り勾配8.2%の急な坂道にある交差点に差し掛かりました。A車は砂利を積んで時速約60kmで走行して目的地に向かっていた時、交差点の手前に赤信号で2台の車が止まっているのを確認しました。Aは、青に変われば発進するものと漠然とイメージしており、このまま惰性運転を続ければ、青信号のタイミングで交差点を通過出来そうだと考えて減速はしたものの、信号が青に変わったと同時に1台目の車は発進しましたが、なぜか2台目の車はすぐに動き出さず、Aは、2台ともすぐに発進すると思っていたので、慌てて急ブレーキをかけましたが、間に合わずに追突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

A車は50%の過積載であり、なるべく加減速をなくす運転をしていたものと想像できます。また、重量の増加により制動距離も延び、咄嗟の対応に困難が生じやすかったとも言えます。過積載をなくし、周囲の状況に応じて余裕を持った車間距離を保つ必要がありました。交差点で止まらずに一定の速度を維持することは、燃費上の利点もありますが、常に前方を注視し、周囲の交通の流れに沿っての運転が重要です。赤信号で停止していた自動車が、青信号ですぐに発進して自車と同じスピードまで加速するとは限りません。青信号であるからスタートするであろうという見込みだけで運転すると、追突事故を起こしかねないことを想像すべきです。逆の立場では、可能な限り後続車の動静に配意して、早めのブレーキランプ点灯による注意喚起や車線を譲るなど、防衛的な運転も肝要です。